



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

謹賀新年



白山最高峰から望む御来光

年頭のご挨拶



近畿中国森林管理局長
本村 裕三

新年明けましておめでとうございます。皆様方には輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年も、依然として木材価格の低迷や林業・木材産業の採算性の悪下が続くなど、林業・木材産業にとって厳しい一年でした。しかし、厳しい状況の中ではありますが、森林・林業・木材産業を再生させようとする機運が徐々に高まっています。

我が国の国土の約7割を占める森林は、木材生産機能とともに、水源のかん養、国土の保全、地球温暖化の防止、生物多様性の保全などの公益的・多面的機能を有しています。このうち戦後造成された人工林は、「造成期」から「利用期」に移行する段階にあり、適切な森林施業や人材の育成、木材利用の拡大などを推進していくことにより、国産材の安定供給体制を構築していくことが急務となっています。

しかしながら、現状は、施業の集約化、林内路網の整備、高性能林業機械の導入の遅れや需要者のニーズに^{ぜいじゃく} 応えられない脆弱な木材供給体制などにより、国産材を十分に活用しうる体制とはなっておりません。

こうした状況を克服するために、農林水産省としては、一昨年12月に「森林・林業再生プラン」を策定し、その具体化を図るため5つの検討委員会で検討が進められ、昨年11月に「最終とりまとめ」が行われたところです。いよいよ、「森林・林業再生プラン」を推進していくための具体的な施策を実施していく段階になりました。

近畿中国森林管理局としても、「森林・林業再生プラン」の推進に向けて、民有林と国有林との連携による森林共同施業団地の設定や路網と高性能林業機械の組み合わせによる低コスト作業システムの普及・定着などに取り組んでおります。

本年は、国連が提唱する「国際森林年」であり、また、「森林・林業再生プラン」を推進していく年でもあります。

近畿中国森林管理局としては、昨年11月の「最終とりまとめ」を踏まえ、局・署をあげて、森林・林業・木材産業の再生や地域の活性化に向けて努力してまいり所存ですので、皆様方のより一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様方の本年のご多幸とご健勝を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

トピックス

「春日奥山古事の森」普及啓発イベントを開催 ～世界遺産と古事の森を知る～

【奈良森林管理事務所】 11月13日（土曜日）に、新築された東大寺金鐘会館・金鐘ホールと春日山原始林において、「春日奥山古事の森」普及啓発イベントを開催しました。

「春日奥山古事の森」は、平成16年度に春日山原始林に隣接する地獄谷国有林（奈良市）に設定し、歴史的木造建造物の修復用資材の供給に寄与するため、関係機関やNPO等との協力・連携を図りながら、200～400年というこれまでにない長期にわたる森林づくりの象徴的な取組として「古事の森」づくりを展開しています。

当日は、一般参加者や古事の森育成協議会関係者、ボランティア団体など、総勢300名が参加しました。

第1部のシンポジウムでは、（財）ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長の西村康氏が、「木と文化財を考える」と題して基調講演を行い、「日本の文化財の木造建造物は、数百年単位で解体修理を行い、根継ぎや部材の取替で守ってきた歴史がある。技術や人材、材料を後世に伝えていかなければならない。」と紹介されました。

続いて、パネルディスカッションでは、「春日大社権宮司：岡本彰夫氏」「興福寺執事長：森谷英俊氏」「東大寺執事長：狭川普文氏^{さがわふもん}」「奈良公園管理事務所長：小西涼治氏」「奈良森林管理事務所：山口所長」の5名がパネリストとなり、山口所長から「国有林の古事の森」とこれまでの「春日奥山古事の森」での活動を紹介し、討論が始まりました。



会場内は満席状態！基調講演等に熱心に耳を傾ける参加者

各パネリストから、興福寺の中金堂再建に使用する柱にカメルーン産のケヤキを調達し使用したエピソードや春日大社の檜皮葺きの屋根修復に係る檜皮の調達

に苦労している話、東大寺の屋根吹き替えの際に調達した檜皮を台風被害にあった宮島の巖島神社へ提供し、その後の調達に5年かかったエピソードなどを、ユーモアを交えた話に、会場の笑いを誘っていました。

また、奈良公園管理事務所長からは、奈良公園には150haのスギ・ヒノキの人工林があるが現在30～95年生となっている。後世に残せるようしっかり管理して行くとともに、公園内にはたくさんの大木があり、春日原始林、古事の森と一体となった落ち着いた山の管理により、巨木・文化財を守っていききたいと述べられました。

最後に、「春日奥山古事の森」の今後の育成方法の説明と文化財を守るためには多くの方々の理解と協力が不可欠で、今回の古事の森の普及啓発活動をきっかけに、さらに取り組みを進めて参りたいと締めくくりました。

第2部の「春日山原始林の森林散策」では、「グリーンあすなら（奈良巨樹・古木の会）」と奈良公園管理事務所の職員の案内で、春日山原始林の散策を行いました。



第2部の森林散策では、スギなどの大木に興味を示す参加者

東大寺を出発し春日大社までの通常は通行できない歩道を奈良公園管理事務所のご好意により、全長約5kmのコースを約2時間30分かけ、参加者らはエノキやムクロジ、スギなどの大木に興味深そうに観察しながら散策しました。

参加者からは、「普段通行できないコースを歩くことができ、大変有意義な散策でした。」

「古事の森の活動を初めて知りました。是非来年も参加したい。」等の感想が聞かれました。

当所では、今後も古事の森育成協議会との連携を密に「古事の森」の普及啓発に向けて取り組む方針です。

関連ホームページ

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/nara/>

地域ニュース

「一丈野治山の森を知ろう」を開催

【滋賀森林管理署】 滋賀県大津市一丈野国有林において、地元小学生のスポーツ少年団員とその保護者（総勢30名）を招き、同国有林の治山事業についてPR活動を行いました。

一丈野国有林は、明治時代から現在に至るまで、溪間工事や山腹工事を随所に施しており、それらの施設は今なお山地災害の防止や環境保全等に役立っています。

これら治山施設の施工効果や維持管理の重要性について、下流域に住む地元の子どもたちにも楽しく学んでもらい、理解をしてもらうことを目的に、イベント「一丈野治山の森を知ろう」を開催したものです。



タマミズキを記念植樹する子供達

保護者を含めた全員で記念撮影

PR活動は、たまみずきの遊歩道をメイン会場として、参加者を5グループに分け、同国有林がはげ山から緑豊かな森林に復旧していく過程を記録したパネル写真を使って分かりやすく話をした後、当時の面影が残る箇所を遠望しました。

また、参加者全員による斜（法）面への緑化種子の手播き作業やタマミズキなどの記念植樹も同時に行いました。

午後は、自然観察会を兼ねたネイチャーゲーム（フィールドビンゴ）を行い、みんなで五感を使いながら治山施設も含んだ自然の中の宝物探して楽しく活動しました。

参加者（保護者）からは、「森林の大事な役目を知ることができて良かった。」「治山の意味、存在を歴史を通して学習できる良い機会となりました。」などの感想が寄せられました。

関連ホームページ
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/siga/>

森林・林業体験交流促進対策事業

【福井森林管理署】 森林・林業体験交流促進対策事業は、森林環境教育に適したあわら市の北湯国有林を「学習教育林」として選定し、地域の自然・歴史・文化を

総合的に考慮した利用方法を検討し、対象年齢、活動期間等に応じた、地域特性を最大限に反映した活動プログラムを作成するものです。

その一環として、「北湯の森と大地を感じよう！」と銘打ったイベントを開催しました。当日はあいにくの曇り空でしたが、福井市などから親子連れを含む35名が参加しました。海に近く、適度に起伏に富んだ地形を利用して、マウンテンバイクによる散策により心身のリフレッシュを図りました。



森林を散策！マウンテンバイクで林道を疾走する参加者

海を見ながら一息

参加者たちは、急な上り坂に苦闘しながらも、森の薫りと潮風を体いっぱい感じていました。

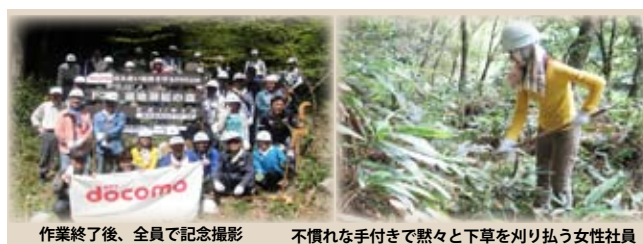
関連ホームページ
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/hukui/>

NTTドコモ社員「法人の森林」で育樹活動

【山口森林管理事務所】 NTTドコモは全国各地の国有林に「法人の森林」を設置していますが、その第一号が山口市の滑山国有林にあります。ここでは、ヤマザクラなどが植栽されていて、同社の中国支社（広島市）と山口支店の社員が毎年、育樹活動を行っています。

今年は、三十七名が植栽木周辺の雑草を除去する作業を行いました。

作業地への途中、杉板を川岸に渡しただけの簡易な架け橋では、板がたわんで上下するのを楽しんだり、和気あいあいとした雰囲気でしたが、作業が始まると、先ほどとは打って変わった真剣な表情で作業に打ち込んでいました。



作業終了後、全員で記念撮影

不慣れな手付きで黙々と下草を刈り払う女性社員

参加者は鎌を普段使わない方ばかりでしたが、上手に刈り払うことができ満足している女性もいれば、「この鎌、全然伐れへん」と四苦八苦している男性もいました。

また、安全のために仕掛けてあったペットボトルの

蜂誘引捕殺器を初めて見た参加者たちは、作り方を職員に聞いたり、もの珍しげにボトルの中の捕獲されたスズメバチを眺めたりしていました。

今回は当所随一の雨男が引率するとあって、所の職員は皆、お天気の心配ばかりしていましたが、今回はいつもと違い、絶好の作業日和に恵まれた一日となりました。

関連ホームページ

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/yamaguchi/>

鳥取自然休養林でクリーンパトロールを実施

【鳥取森林管理署】鳥取市内に所在する旧城山国有林において、OF会(岡本弘市会長)の協力を得てボランティアによる「自然休養林クリーンパトロール」を実施しました。

この旧城山国有林は、昭和48年に自然休養林に設定されており、鳥取城趾、久松山(△263m)とともに鳥取市街地の背景にあって、都市に潤いを与える風景林として親しまれているとともに、樽谿(おおちだに)公園から頂上の太閤ヶ平(たいこうがなる：豊臣秀吉が鳥取城を攻略したときの陣跡)までは保安林管理道が整備されていることから、森林浴、ハイキング、ウォーキングコースとして多くの市民が利用しています。

当日はOF会9名に職員10名を加えた総勢19名により、太閤ヶ平から樽谿公園へ向けて保安林管理道の路面、側溝及び標識類の清掃作業を行いました。

昨年の作業が思いのほか重労働であったことの反省から、今年は紅葉狩りを兼ねて軽作業で望む予定でしたが、当日は報道機関の取材を受けたこともあり、いざ作業となると参加者皆、森林浴や会話もそこそこに黙々と作業が進められました。



竹ぼうきを持って落ち葉等を掃除するボランティアの方々

全行程2.0km、5時間にわたる作業となりましたが、作業を通じて行き交う人々から「ご苦労様です」「きれいにして下さってありがとう」…と多くの声をかけられるなど、自然の中でほのほのと新鮮で、公衆の利用に供される国有林の整備を通じて、流した汗が清々しく感じられる一日でした。

また、今回の取組がテレビのニュースで報道された

こともあり、市民から親しまれている旧城山国有林とそれを管理する森林管理署の取組を広くPRすることができました。

鳥取森林管理署では、美しく地域から親しまれる自然休養林とするために、引き続き関係機関やボランティア団体と連携を図り、環境整備等の取組を推進していきます。

関連ホームページ

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/tottori/>

お知らせ

2011年は国連が定める「国際森林年」です



国際森林年ロゴマーク

2011年(平成23年)は、国連が定めた国際森林年(the International Year of Forests)です。

国際森林年は、世界中の森林の持続可能な経営・保全の重要性に対する認識を高めることを目的としています。

我が国でも、国際森林年という節目の年に、現在取り組んでいる森林・林業再生や「美しい森林づくり推進国民運動」、途上国の森林保全等に対する国民の理解の促進につなげていくことを目的に、様々な活動を予定しています。

国際的なスケジュール

- (1) 2010年12月に石川県で行われた国際生物多様性年クロージングイベントの際、国際森林年とのブリッジングセレモニーを実施。
- (2) 第9回国連森林フォーラム(UNFF)会合(国連本部、2011年1月～2月開催)の際、国際森林年を公式に立ち上げ。
- (3) 第66回国連総会(2011年9月開催)において、一日のみの特別ハイレベル・イベントを開催。

詳細につきましては、下記アドレスよりご覧下さい。

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/kaigai/2011iyf.html>